

東白川村越原（日向集落）

令和5年度

【地域の概要】

- 山間部に位置するため、傾斜・不整形な農地が多く、乗用機械等の大型機械の乗り入れが困難な農地も多い。寒冷地でもある。
- 東白川村は、県内第3位の高齢化率（令和2年国勢調査結果より）であり、高齢化・後継者不足による耕作規模縮小や離農が問題となっている。

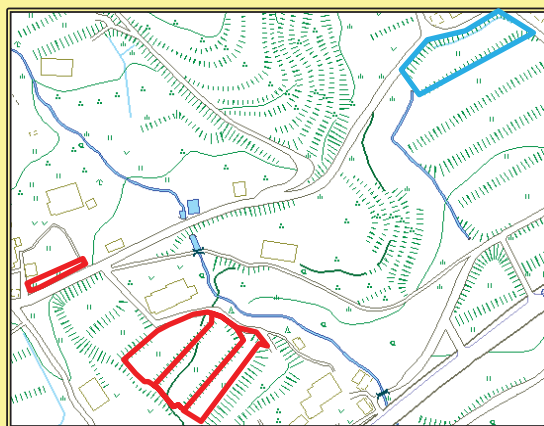
①取組開始前の状況や課題

- 高齢化・後継者不足による農地の担い手不足・それに伴う耕作放棄が深刻な課題となっている。
- その対策として、諸条件（寒冷地でも育ち、比較的手間や費用がかからず、獣害に遭い難く、高単価が期待できる）を満たす作物による振興が農業委員会により計画され、大蒜が振興作物に指定された。
- 一方で、東白川村が比較的寒冷地である事や、中山間の狭い農地が多いことから、主な大蒜の産地（青森等）と競合するような大蒜生産をするのは難しいと考えられ、郷土野菜として的大蒜生産を模索すべきとの意見が出ていた。
- 一昨年より、実験圃場の運用を開始したが、ノウハウや種・生産者の不足や販路が課題として残されており、今後の方向性について検討が必要な状態であった。

②取組内容

- 大蒜は、植え付けを始めてから、その地域になじむまでに3～4年かかる。そのため、関係者で会議を行った結果、数年は種苗の増産・なじませを行う事となった。
- 本年度は、休耕リスクが高かった以下の土地（約1.6反）を追加で借受け、栽培を行った。

※既設圃場：青 新設圃場：赤



視察の様子

③今後の展開と方向性

- 数年は、種の確保に努めつつ、随時会員を募集していく予定である。
- 研究会により遊休農地・遊休化しつつある農地を借り受けて、遊休農地の発生防止・解消につとめる。
- 現在種苗の増産をすすめている義城大蒜は、生産者が増えたことにより価格が下落傾向にあるとの話がある。他的大蒜（ホワイトロップン等）についても、生産を検討して行く必要がある。